東海第二原発の再稼働について考えてみませんか

おかしなことをおかしいという会

ごく最近、28 年前に出版されたもので、2011 年 3 月の福島原発事故をまるで分っていたような内容の本を読みましたので紹介します。著者は、福岡県にお住まいの一主婦、甘蔗珠恵子（かんしゃ たえこ）さんで、「原発をめぐる様々な深刻な問題を訴え、人類は原子力と共存できないことを、母親として“いのち”の視点で切々と語」った内容でした。専門家でもなく、市民運動している方でもないが分かりやすい。そのはじめから述べてみます。

「何という悲しい時代を迎えたことでしょう。今まで、自分の子どもに、家族に、ごく少量ずつでも、何年か何十年かのちには必ずその効果が現われてくるという毒を、毎日の三度、三度の食事に混ぜて食べさせている母親がいたでしょうか。

そのような恐ろしく、愚かしいことを、今の世の母親はほとんど知らずに、知っていてもどうすることもできず、できるだけ毒の少ないものを選んで食べるよりしょうがなく、おいしく楽しかるべき家族のための食卓の用意がとても重苦しく、罪の意識にさいなまれます。食べものというのは、この生命を維持、生長させるために摂ります。

それなのに、生命を枯渇させる毒入り食べものを家族のために料理せねばならないなんて。有害添加物入りプラス放射能入り食品を食べねばならない時代が来ようとは、誰が想像したでしょうか。一年前（1986 年）に起きたソ連のチェルノブイリ原発事故後の、ソ連やヨーロッパの母親達の悲しみは想像を絶します。

ところが今や、対岸の火事ではなくなったのです。－－－－ そして、日本でも海藻類、野菜、牛乳、母乳からも放射能が検出されました。その時、ちょうど赤ちゃんに母乳を飲ませていたある母親はこのことを知り、それから毎日泣きながら赤ちゃんにお乳を飲ませていたといいます。母乳には放射能が最も濃縮され、そして赤ちゃんは一番その影響を受けやすいことを、このお母さんは知っていたからです。原発（原子力による発電のこと）が生み出す人工の放射性元素は体内に濃縮されやすいので、食物連鎖により生体に濃縮されます。

－－－－ こうして体内に放射性物質が取り込まれると、さまざまな部分に蓄積し、放射線をだしつづけて、細胞を破壊します。－－－－ のどの甲状腺にはヨウ素 131 が蓄積し、甲状腺ホルモン障害を起こします。－－－－ 肺にはプルトニウム 239 が蓄積して肺ガンになります。－－－－ 骨にはストロンチウム 90 が蓄積されて、白血病を起こします。－－－－ 肝臓にはコバルト 60―――肝臓ガンになります。－－－－ 生殖腺にはセシウム 137 が蓄積し、不妊になったりホルモン障害を起こしたり、生まれた赤ちゃんは重い障害をもちます。

－－－－ 今、私は絶望の崖っぷちに立って震えています。人類滅亡の時が見えるようで――。でも、その淵からまた見えるものも一方にあるのです。もし、もしこのことが実現したならば、この淵を乗り越えることができたならば、私達人類は生きのびて、そして今までとまったく違った価値観で世の中が動いてゆく…そんな世界がひろがるのだと。ず一っとむこうに、一条の光を見る思いがするのです。私達は今、岐路に立たされているのだと思っています。

そのどちらかの道をとることで、私たち人類の運命が決まるのだと思っています。すべてのことを

“いのち”の方から見ようではありませんか。私たち女性、ことに母親には、先天的にというか、本能的にこの偉大な能力が与えられています。そのこと、実感したことありませんか。私たち母親のもっているものって、本当はすごいものだと思います。どんな科学も知識もたちうちできないものだと思います。この混迷の世を救う力を私たち母親が秘めているのだと、実は思っているのです。

－－－－

原子力は無用なのです。

そして原子力は人類と共存できません。1987 年 5 月　」

（甘蔗珠恵子著「まだ、まにあうのなら～私の書いた、いちばん長い手紙～」地湧社（1987　年）、2006 年 4 月 25 日に増補新版された本より抜粋）

甘蔗さんはその本の中で言っています。「この地球、そして宇宙は大調和の世界です。補い合い、扶け合うことによってその調和が保たれている世界です。生命体です。私は、それを神とも思い、母とも思っていますが、その神、母なるものに対して、私は申し訳なさでいっぱいになるのです。これ以上、傷つけ、痛めてはいけない。この神、母は、私たち一人一人でもあるのですもの。みんな、みんな同じ、いのちなのです。」

わたしはこのことばに同調しそのまま受け入れることができます。とても深い内容ですが、ここまでにします。そして、2005 年 9 月 20 日彼岸の入りのときに信じられない現象が生じました。増補新版にはそのことが書かれています。定価が 1000 円です。是非読んでください。なにか大いなるものが作用してそれを成し遂げたとわたしは思います。

本年 1 月 2 日に村松の虚空蔵尊に初参りしました。そのときに、「このまわりから原発再稼働について考える運動を始めなさい。」と言われたように思いました。

みなさん、九州で川内原発が昨年 8 月に再稼働しました。しかし、社内では立地屋と呼ばれていた九電 OB の徳田勝章氏（77）の予想が書かれていました。12 月 30 日の朝のこと。－－－－5 キロ圏内には表立った原発反対の動きはない。しかし、徳田は住民投票をすれば「反対」が多いとみる。「『原発はないに越したことはない』、あるいは『必要だが、よそで造ってくれ』というでしょうね」昨年 11 月、知事伊藤祐一郎（68）が再稼働に同意する直前、記者は原発 5 キロ圏、峰山、滄浪、寄田の 3 地区を歩き、再稼働への賛否を問う住民 100 人アンケートを試みた。 20 歳以上の住民 2 千人足らず。結果は有権者全体の意見を反映したものではない。回答は「わからない」などを除いて、再稼働に「賛成」17 人、「反対」は 75 人。 この数字に、徳田はうなずいた。「3 地区の全住民にいまアンケートをしても、結果はそう変わらないでしょう」（朝日新聞 12 月 30 日朝刊、田中啓介）潜在的には 75%が反対していたが再稼働されてしまった。市民の声が聞かれなかった。

川内原発の再稼働を止める運動のやり方がまずかったのではないだろうか。東海第二原発の再稼働審議を直前にして、そのようにならないようにしなければならないと 1 月 2 日に誓いました。

事務局　小林　正典（代表、茨城大学名誉教授、工学博士）〒317-0066　茨城県日立市高鈴町 5-21-3　E メール　masanori.kobayashi.kuutenki@vc.ibaraki.ac.jp）　電話　0294-24-4176